

ART CARAVAN2023  
劇団風の子中部  
「ギャング・エイジ」  
新城公演

主催：公益社団法人日本児童青少年演劇協会

児童青少年演劇全国縦断公演

～コロナ禍の子どもたちに演劇鑑賞体験の回復と拡充を～

文化庁文化芸術振興費補助金  
統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業  
助成：(アートキャラバン2)  
独立行政法人 日本芸術文化振興会



令和4年度 厚生労働省社会保障審議会特別推薦  
令和5年度 児童福祉文化賞受賞作品



原作/阿部 夏丸

脚色/いずみ 凜

演出/中島 研 制作/西川 典之



2023年6月11日(日)

開演 15:00 開場 14:30 (75分 休憩なし)

場所 新城地域文化広場 小ホール  
(旧 新城文化会館)  
愛知県新城市字下川1番地1

料金

2,000円 前売り  
2,500円 当日  
4歳以上有料

お申し込み・お問い合わせ

前澤このみ 090-2579-1771



劇団 風の子中部

〒500-8241 岐阜県岐阜市領下21-16

TEL 058-215-7780

FAX 058-215-7781

後援 愛知県教育委員会・新城市教育委員会・東栄町教育委員会

☒tokai@kazenoko.co.jp ☒https://www.kazenokotyubu.com



# 制作にあたって

子どもはしたかた。

どんな時代であっても、どんな状況が襲ってきたとしても、それを子どもたちの力で上手に乗り越えてきた時代があった。もしかしら、今の子どもたちだって自分の力で克服していく力を持っているのだらう。いや、持っているはずだ。実は今の大人社会のほうに、子どもたちを許容することができるかどうかかわっているのではないらうか。

目の前にいる子どもがどうしたいのか、どうありたいのか、何故そうするのかより、その子の行動が世間の常識からはみ出していないかどうか、基準になり、拳句の果てに子どもが動くより先に管理や制限をしよう。

大人の子どものまなざしが子どもに寄り添ったものであった時、初めて子どもたちが生きる輝きを放つはずなのに。小学校3、4年生のことを総称し、ギャングエイジと呼ぶ。今もそれは変わらないはずである。



原作/阿部夏丸  
脚色/いずみ 凜  
演出/中島 研  
音楽/曲尾 友克  
ブルースハープ指導/神農 正裕  
身体表現/若林 こうじ  
美術/風の子中部美術プロジェクト  
衣裳/田島 千穂  
制作/西川 典之



しかし、周りの評価の中で自らを規制し、自分を表現することが出来ない子どもが増えているように思えてならない。遊んだり、ケンカしたりを繰り返して、その中で遭遇したさまざまなトラブルに対し、排除の論理ではなく、自分の思いをぶつけ合い、論理ではなくていく子どもたちの姿を表現してみたい。

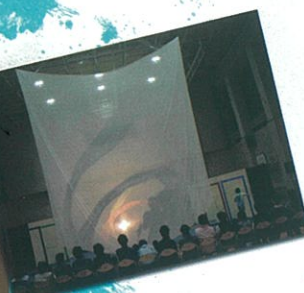
そんな思いが風の子中部の中からふつふつと湧き上がってきた。

作家の阿部夏丸氏は語ってくれた。「子どもたちは、どうのこうのと評論する大人が一番信用できない。本質は昔も今も何にも変わっていないんですよ。変わったのは、大人社会のありようなんです。だから、僕らはとことん子どもたちを信頼していきましょうよ」「ギャング・エイジ」英二を中心に、その仲間たちが、彼らを取り巻く現実に向かい合い、立ち向かっていくことができるのか。

それは、私たちのこの時代への挑戦かもしれないと思いつながら。

西川典之

# 流れ



# ギャングエイジ!

## あらすじ

主人公エイジは、元気で人気者な小学四年生。お笑い好きのタカヒロや優等生のミサキ、虫が好きになちょっと変わったココロ、ユニークな同級生たちと毎日過ごしていた。

そんなある日、偶然が重なり、突然エイジは「らんぼうもの」のレッテルを貼られてしまう。どうしていいかわからないエイジは学校を逃げ出し、中学生のイサオと出会う。

「弱い者いじめはダメだ。迷惑たれながす奴もだめだ。かっこいいギャングになるんだ」と語るイサオ。エイジは決めた。

目指すは「かっこいいギャング！」

こうして孤独を決めこんだエイジ。けれど、やっぱり親友タカヒロのピンチは放っておけない。ココロの機転でそのピンチを乗り切ったエイジたちは次なる作戦、ココロの夢の実現に乗り出す。

「夢は見るもんじゃない。叶えるもんだ」…?!

さあ果たしてココロの夢は叶うのか、そして、それぞれの夢の行方は?

原作者 **阿部夏丸** ・NATSUMARU ABE

脚色 **いずみ凜** ・IZUMI RYUN



1960年愛知県豊田生まれ。処女作「泣かない魚たち」で第11回坪田譲二文学賞・第6回 棕嶋十文学賞をダブル受賞。「オタマジャクシのうんどうかい」で第14回ひろすけ童話賞を受賞した。執筆活動のかたわら「川遊びのワークショップ」や「講演会」活動も多数行う。大人から子どもまで楽しめる川と生き物の話は氏の人柄によるところが大きい。生まれ育った矢作川をこよなく愛し、いまだ川ガキのままである。

岐阜県出身。幼いころから演劇に親しみ、大学卒業後、劇団はぐるまに入団。1989年NHKのラジオドラマ執筆をきっかけに脚本家としての活動を開始。東京演劇アンサンブルを経て現在フリー。日本全国のさまざまな劇団の脚本を執筆。児童青少年に向けた作品が多く、子どもからおとなまで共に観て共に語り合える演劇をめざしている。近年の舞台脚本は『くまの子ウーフ』『ハンナのかばん』『夜空の下に降る花は』オペラ『銀のロバ』人形劇『ねずみ女房 The Mousewife』『岸辺のヤービー』『トクントクン ーいのちの旅ー』など